

平成20年2月

足立洋心 学位論文審査要旨

主査 西村元延
副主査 井藤久雄
同 林一彦

主論文

Lymphatic vessel density in pulmonary adenocarcinoma immunohistochemically evaluated with anti-podoplanin or anti-D2-40 antibody is co-related with lymphatic invasion or lymph node metastases

(抗Podoplanin/D2-40抗体を用いた免疫染色による肺腺癌におけるリンパ管密度は、リンパ管浸潤やリンパ節転移と相関する)

(著者：足立洋心、中村廣繁、北村幸郷、谷口雄司、荒木邦夫、庄盛浩平、堀江靖、黒沢洋一、井藤久雄、林一彦)

平成19年 4月 Pathology International 57巻 171頁～177頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は免疫組織学的手法を用いて、肺腺癌における重要な予後因子の一つと考えられるリンパ節転移等の臨床病理学的事項とリンパ管密度、脈管浸潤やリンパ管誘導因子（VEGF-C、-D）などの発現について検討したものである。肺癌取扱い規約には脈管浸潤の評価項目はないが、乳癌等ではすでに規約に入っており、肺癌においてもリンパ節転移と相関する非常に重要な因子であることが示された。また、リンパ管浸潤の前段階におけるリンパ管密度増加もリンパ節転移やリンパ管浸潤と相関する重要因子であることが示された。これらの研究成果により、リンパ節転移の前段階の状態を把握することができ、今後の肺癌の診断や治療に応用される可能性が高い。